

眼科摘要

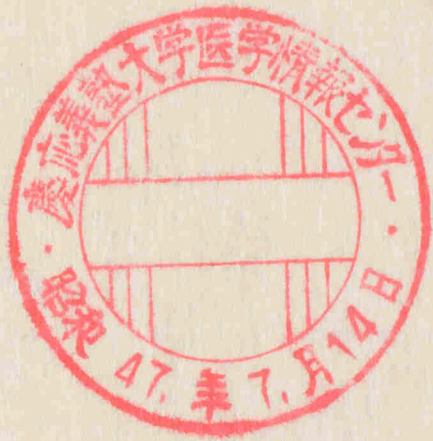
八

496.2

Ga-2

7

No. 887



富士川文庫

3173

眼科摘要卷之八

荷蘭

用百般默児埜児法尔萬鈔

佐倉

佐藤 舜海 関
倉次 元 意 譯

脉絡膜及尾状腺病

脉絡膜血積

此症ハ多ク顯ル、者ニシテ速ニ辨ニ得一ニ。而
ノ壓實ノ二性アリ。視力明カナラス。眼中或ハ壓
スカ如ク。或ハ張ルカ如ク。或ハ刺ス如ク。燃火ナ
クシテ是ヲ見ル。且ツ網膜刺衝ノ症状ヲ顯ス。是

ニ加ルニ身體ヲ動シ。精神ヲ勞シ。揮發ノ飲液ヲ
飲シ。時候熱スル氏ハ。腦中血積ノ尋常症顯レテ。
神經諸症増進ス。

此主因トナル者ハ。小腹多血。殊ニ痔血。經血ノ閉
塞ナリ。結膜ノ脉管。灣曲腎張シテ血ヲ充ツ。故ニ
小腹脉腎張スト云フ。シカノミナラス。角膜ヲ繞
テ青輪顯ル。是靜脉血ノ輻湊ニ由テ生スル者ナ
リ。若シ經久數月ヲ歷ルニ至レハ。強膜モ病ヲ受
ケ。其實薄クナリテ変張スルナリ。

治法

決テ消焮法ヲ行フ一カラズ。疼痛甚シクシテ忍
ビ難キ症ノミ。蟬針二三箇ヲ許ス。過度ノ刺戟ヲ
禁シ。腸ト下支トニ誘導法ヲ行ヲ主トス。野外ニ
逍遙シ。食事ヲ戒メ。冷水。泉水ヲ飲量トナシ多服
セシメ。鑛泉ニ浴セシム。

脉絡膜焮衝

此症。日常見ル所ノ症ニテ甚カ危シ。正發ナル者
アリ。或ハ角膜焮衝。毛様靱帶焮衝。尾狀展焮衝ト
合併スル者アリ。轉歸經過ハ原因ニ應シテ異ナリ。或ハ滲出物ノ

性ニ應シテ異ナリ。

水、纖維、假膜ヲ滲出スルハナリ。

而メ脉絡

膜ノ襲ル、所一部ナル者アリ、或ハ全部ナル者

アリ、其經過ニ急慢アリ、此焮衝ヲ區別スルニハ、

經過ノ急慢ニ從フヲ最モ良トス、又原因ノ性ニ

從テ區別スルニハ、外傷、聖京、濕性、都啡、吡啡性、痛

風性、膿毒性ニ分ツヲ主當トス。

其一 急性脉絡膜焮衝

此正症トナス、キ者ハ、症状一時ニ起リテ劇甚

トナリ、前室引縮セラレ、眼瞼赤色ヲ顯シテ、少シ

ク浮腫シ、結膜ノ脉管腎張シ、角膜ヲ繞リテ青色

ノ輪ヲ顯シ、紅彩腫脹シテ突出シ、其縮張靈敏ナ

ラス、遂ニハ引縮セラレテ動カス、色變シテ衰乏

ス、瞳孔黑色ナリシ者ハ、灰白色ニ變ス、羞明、涙出、

眼瞼痙縮、視力衰乏シテ、眼ニ光輝ヲ見ル、耳鳴ア

リテ猶且聾ス、眼球甚シク壓迫サレテ、恰モ眼窩

内萎縮セララル、カ如キヲ覺フル者ナリ、全身症

トナリテ顯ル、者ハ、腸胃症、嘔氣、吐逆、精神鬱憂、

發熱ナリ、其經過速ニシテ、一晝夜ヲ經スシテ、全

ク盲スル者ヲ見タリ、然レモ多クハ數週間留連

シテ、慢性症ニ移リ、慢性症ハ轉歸ニ終ル、病間此

合併症トナリテ顯ル、者ハ、毛様鞏帶、脈衝、尾狀
展、脈衝、角膜、脈衝、血眼、膿眼ナリ、其血眼、膿眼ノ發
スルヤ、先ツ眼瞼腫張ヲ以テ始ル。

其二 慢性脈絡膜脈

此症慢徐ニシテ、經過中變易ス、其始メ鼠鼯ノ走
ルヲ見、又靄霧ヲ見ル、其症漸ク増シテ眼力衰、
此間留連スルヲ數月、眼ヲ診ルニ強膜淺藍色ヲ
顯シテ突起ス、結膜腎張シテ、其裏ニ滲出物ノ汁
ヲ輸ス、其滲出物、強膜ヲ壓ス力故ニ、強膜弛緩薄
弱トナリ、遂ニ眼球ヲ壓迫ス。

原因區別

其一、外傷ニ由ル者ハ、眼ノ他部ノ脈衝ヲ合併ス、
刀傷モ亦此脈衝ヲ致ス、然レモ危險ニ陷ル者少
シ、只異物眼中ニ在ル者ノミ危シトス、灰白内障
醫手術ニ生スル脈衝ハ、則外傷ニ由ル者ナリ、探
眼鏡ヲ以テ見ニ、眼ノ深所ニ於テ、種々ノ滲出物
ヲ出シテ、以テ此水晶體ヲ圍ム者アリ。

治法

異物アレハ勉メテ是ヲ去ルヘシ、異物留マレハ
膿ヲ醸シ易クシテ、遂ニハ發ニ盲スレハナリ、滲

出物ヲ生セントスル勢アリ。刺絡、蟬針、清涼下劑、水銀膏ヲ用テ是ヲ制ス。一、内外ニ阿芙蓉ヲ用ヒ、乾濕二性ノ溫物ヲ貼シ、晚期ニ及テ化膿ヲ生スル者ハ、是ヲ速ニ去ラスハ非ス。則針ヲ刺シテ、其膿ヲ漏ラス一術ノミ、眼ヲ救得ヘシ。其二、聖京偃原因ニ由ル者ハ、胃寒シテ血液ノ頭中ニ灌ク者此病因トナリ、速ニ滲出物ヲ出シテ、二三日ノ中ニ盲スル者アリ、其病状ハ、結膜、腎張微クシテ、流涕出ルヲ夥シク、羞明アリテ、眼瞼痙縮シ、結膜ノ裏面ニ水液ヲ溢出シ、眼球ノ運轉、澁

リテ瞬スルヲ頻リナリ。是聖京偃ニ感スル眼筋ノ致ス所ナリ。其他、屢壓痛、裂痛ヲ覺ヘ、視力衰ヘテ、網膜衰乏ス、病ニ發シテ日ヲ延ギ經久ナル片ハ、滲出物ヲ生スルヲ多クシテ、瞳孔色ヲ失ヒ、縮張靈敏ナラス、猶甚シキ者ハ動カスシテ引縮ス。此病性ハ多クハ壯健小壯ノ人ニ生ス。

治法

發汗劑ヲ行ヒ、但シ攷擊ニ過クニカラス、暗室ノ床上ニ安卧シ、前額ト顙顙トニ蟬針ヲ貼シ、項ト腰トニ吸角ヲ施ス、水銀膏ニ芙蓉ヲ和シ是ヲ

塗リ、頭中ヲ暖カニ保護シ、内毛ハ吐酒石ニ吐根
ヲ加ヘ與ヘ、一切ノ處置寒冷ヲ禁ス、晩期ニ至テ
ハ、顯露ニ發泡膏ヲ貼シ、沃度加里膏、水銀膏應ス、
病ニ治シテ後、眼ヲ使役スヘカキズ、是其再感ヲ
防クノ一術ナリ。

其三、**咖啡豆**ニ由ル者、脉絡膜中ニ、**咖啡豆**ヲ
泌別スルト云フヲハ、元來體質ニ由テ生スル者
ニテ、此症多シト雖、症狀確實ナラス、幼童、又眼
色灰白ナル小兒、腺病質ヲ著シク具フル者ニ、此
症ヲ生シ易シ、必ス盲目ヲ以テ終ル、若シ**咖啡豆**

啡ヲ泌別スルヲ月ヲ重子テ止マサレハ、眼球從
テ漸クニ突張シ、遂ニ破裂ス、若シ然ラサレハ、其
咖啡豆硝子體ヲ犯シテ是ヲ荒蕪シ、以テ衰乏
セシム、此主症トナスヘキ者甚ク疑ハシ、物像摸
糊トシテ辨スヘカラス、深所ニ當テ光澤アリ、其
經過多クハ慢性ニシテ、探眼鏡ヲ以テ、眼ノ深底
ヲ見ルニ、時アリテハ**咖啡豆**ノ粘連スルヲ見
ル、是癌ニ異ル所ナリ。

治法

原因トナル所ノ惡液質ヲ起ニ疼痛ヲ鎮ムルニ

アリ。疼痛ハ失明ノ後正猶智毛スルヲアレハナ
リ。

其四、膿毒ニ由ル原因ハ、膿毒轉移シテ眼中ニ来
リ、以テ熱症ヲ顯ス者ナリ。殊ニ產婦ノ蓐熱、第扶
私等ノ病者、是ニ罹リ易シ。此主症トナスヘキ者
ハ、疼痛羞明ヲ顯シテ、速ニ失明シ、續テ死ス。死セ
サレハ、血脉沮塞セラレテ失明ス。又結膜、眼瞼ノ
掀衝ヲ起シ、是ヨリシテ毛様鞏帶掀衝、膿眼、角膜
破裂等ノ症状加ハルヲアリ。

治法

原因トナル所ノ膿毒症ヲ制スルニアリ。膿ノ眼
中ニ顯ル、者ハ、速ニ刺開シテ是ヲ漏ラシ劇痛

ト緊張トヲ減セシム。

其五、痛風及ヒ小腹病ニ由ル者ハ、急慢ノ二性アリ。

遂ニハ所謂「グラユム」緑障眼ニ陷ルナリ。然レ

氏真ノ緑障眼ノ如ク、眼底綠色ナラス。顯症ハ、急

慢ニ由テ異ナリ。大抵毛様鞏帶ト、結膜ノ脉管強

ク腎張シテ角膜ノ表裏ニ赤色ヲ顯ス。紅彩ノ色

變リ収縮シテ活動セス。遂ニハ突出ス。瞳孔ハ其

形チヲ失フテ色モ亦變リ。遂ニ水晶體黃色ニ變

スル氏ハ、元來瞳孔ノ黒色ナル者ハ、綠色ヲ顯ス
障眼 障眼 緑 全眼疼痛アリ。殊ニ光輝ニ觸ル氏ハ其疼
ミ甚シ、視力衰一テ、物像ノ色ヲ變セシム。此ノ如
キ症状留連シテ、其經過ノ間或ハ佳況ヲ顯ス
アリ。復タ惡候ニ進ムアリ。若シ新タニ胃寒、聖
京屈ニ感シ、口禁ヲ破リ、精神ヲ鬱スル等ノ事故
アレハ、疼痛ヲ増シ、視力衰一テ、是カタメニ失明
ニ終ル。此症多クハ他眼ニ轉シテ、速ニ兩眼失明
スル者ナリ。

發作反復スル毎ニ、新タニ滲出物ヲ出シテ、疼痛

起ル。蓋シ疼痛ハ失明ノ後、猶ホ生スル者アリ。此
ノ如キ症状ニ兼テ發熱シ、精神變革シテ、尚ホ
且魯鈍ニ至ル者アリ。此病ニ極末ノ轉歸ハ、眼
球増大、膨脹、或ハ萎凋、水晶體曇暗ナリ。病原ヲ索
スルニ、恐ラクハ遺傳ニ出ル者ナリ。婦人頗ル此症
ニ罹リ易ク、又老人淫亂ノ者モ亦此病ニ生シ
易シ。

豫後

初起ニ於テ已ニ良ナラス、只細心ニ注意シテ、治
法ヲ行フ氏ノミ。兩眼共ニ其失明ニ至ルヲ防キ

得一シ。

治法

消煎法極メテ害アリ。又點眼藥中精氣劑寒水ヲ以テ洗フモ。失明ヲ促スノ媒トナル。此症ノ主治トナス一キ者ハ。病原ヲ制スルニアリ。殊ニ小腹多血ヲ疎開スヘシ。其藥石ノ尤モ稱ス一キ者ハ。疎利下劑。植物苦味ノ越綫私。蒲公英類。頭ノ角法。肛門ノ水蛭。發疹膏。刺戟ノ脚湯。浴湯等ナリ。眼ハ慎テ使用ス一カラス。清涼乾燥ノ室ニ安卧シ。適度ニ身體ヲ運動シ。食餌ヲ減シ。鬱憂ヲ散ス。殊ニ

第二眼ノ失明ヲ禦クヲニ注意スヘシ。間歇アリ

テ發作シ來ル者ハ。其性純粹ナレハ。麻酔藥ニ硫酸規尼捏ヲ加ヘテ効アリ。殊ニ規尼捏。摸兒非捏ノ和劑ヲ賞用ス。乾燥ノ溫氣ハ。疼痛ヲ減ス。時ニハ針刺法効アリ。

脉絡膜出血

此症モ亦少キニアラス。血液多クハ脉絡膜ト。強膜ノ層間ニ溢出し。或ハ脉絡膜ト。網膜トノ層間ニ溢出し。或ハ脉絡膜ノ層間裏面此膜二層ヨリ成ル。所謂葡萄膜是ナニ溢出ス。時ニハ網膜鑢孔セラレテ。血ヲ硝子

液中ニ溢出スルヲアリ、是即チ網膜ノ合併病ニ
シテ、網膜實質中ヨリモ亦血ヲ出スコトアリ。
脉絡膜損傷モ、眼室中ニ血液ノ溢出ヲ致ス、其度
ノ劇甚ナルハ、全眼盡ク荒蕪セラレ、又全身震
蕩、打撲、墜墮、嘔吐、咳嗽、暴風等ニ中リ、眼ノ一局所
ニ血ノ溢出スルヲ少ナカラス、探眼鏡ヲ用ユレ
ハ、明了ニ其血斑ヲ辨シ得ヘシ、患者自ラ視力ノ
障礙ヲ覺ヘ、又物像ノ色ノ替ルヲ知ル、遂ニハ
黒障眼ニ轉ス、此症ノ反應症トナリテ、屢々熈衝
ヲ生シ、其熈衝ノタメニ、解散シテ幸ニ治スルヲ

アリ、若シ滲出スル所ノ血多ケレハ、速ニ黒障眼
ヲ生ス、故ニ豫後總テ吉ナラス、

治法

鬱閉スル者ハ、是ヲ開キ、排泄ヲ促スニアリ、出血
ノ閉習アル者ハ、是ヲ再發セシム、危急ノ時ニ臨
テハ、瀉血ヲ行ヒ、是ニ替ユルヘシ、収斂劑、明礬、單
寧、錢劑應ス、而シテ眼ヲ安護シ、熈衝ノ顯ハレント
スル状アル者ハ、防熈法ヲ行テ、吸水力ヲ奮發セ
シム、揮發液ノ洗濯法、稀薄亜尔尼加丁、幾水銀、沃
陣ヲ摩入シ、越氣ヲ行フ、内藥ニハ、甘汞、遠志、實黃

荅利私、亜ル尼加、沃度加里等ナリ。

脉絡膜水腫

此症ハ、既ニ水腫病編

卷之二十三

論說スレハ、此

ニ省キテ其反復ヲ避ク。

色素消亡

此病ハ、一種ノ病ニシテ、葡萄膜、脉絡膜、其色ヲ失
フ者ナリ。故ニ此病者、物像ヲ著シク辨スルコト
能ハス。只暗所ニ於テ稍物像ヲ見得一ク、物ヲ見
ントスレハ、必ス瞬頻リニ来ルナリ。此症ハ他ノ
眼病ニ合併スルコト多シ。又眼中色素ヲ失フノミ

ナラス。睫毛、眉毛モ亦其色薄キ者ナリ。此病多ク
ハ遺傳ニ属ス。

治法

只近視眼ノ眼鏡ヲ用ユ一シ、色アル眼鏡ニ勝レ
リ。

脉絡膜破裂ハ、天稟ニ出ル者ヲ見タリ。又此病ヒ
毛様靱帶ニテ、破裂ノ及フ者アリ。胞蟲モ亦脉
絡膜、葡萄膜ニ生スルコトアリ。癌性ノ腫ヲ、脉絡膜
ニ生スル者稀レナリ。多クハ他病ニ生シテ、脉絡
膜ニ及ホス者トス。

尾狀展燠衝

翹近此燠衝ヲ精密ニ識別シテ言リ、此症ヲ患ル者少ナカラズ、此症多クハ毛様鞏帶燠衝、角膜燠衝、脉絡膜燠衝ノ經過中ニ顯ル、者ニテ正發症トナリテ生スル者甚タ稀ナリ、此燠衝ノ正症ハ全輪或ハ半輪狀ヲナシ、毛脉網尾狀展肉一入ニ錯綜シテ網狀一種ノ暗色ヲ顯ス、瞳孔正圓ナリ、又或ハ縮小スルアリ、若シ成形滲出物ヲ出スハ、尾狀展腫脹ス、此タメニ起ル所ノ反應症、亦取リテ正徵トナスヘキ者アリ、就中羞明、眼

瞼痙攣、流淚、視力障礙ナリ、而シテ視力ノ障礙ハ顯

レサルヲナシ、此症留連スレハ、角膜後面曇暗ト

ナリ、時ナリテハ角膜燠衝ニ罹リ、其患紅彩、脉絡

膜ニ及ヒテ、更ニ燠衝ヲ生シ、其轉歸ニ移ル、此ノ

如ク諸所燠衝スレハ、尾狀展ノ顯症減シ、却テ發

熱、腸胃症顯ル、上眼窩、及ヒ又神經ノ運行ニ從テ

疼痛蔓延スル者ナリ、瞳孔ノ後口ニ滲出物ヲ致

ス、凡ソ此燠衝初期ニ有力ノ防燠法ヲ行テ、其勢

ヲ截斷スレハ治スヘシ、若シ是ヲ減殺スルヲ能

ハサル者ハ危シ、滲出物ノ產出ヲ制スルヲ專

務トス一シ。

淚器病

淚核淚衝

淚核淚衝多クハ外傷ニ繼發スル者ナリ。然ラサ
レハ眼窩蜂窠織淚衝ニ合併ス。其顯ル、所ノ症
ハ、稍モスレハ眼瞼結膜淚衝、淚溝骨潰瘍ニ錯リ
易シ。急性症ハ痛アリテ。上眼瞼腫レ、眼球微シク
突出シテ。淚汁ノ分泌閉塞ス。則チ病ニ治セント
スル氏。或ハ慢性症ニ轉セントスル氏。始メテ淚
汁ニ多ク泌別ス。慢性ノ症ハ、時ニ覺神經ノ亢進

ヲ合併ス。此症ノ轉歸ヲ。硬結肥厚ニ致ス時ハ。其
核ヲ剔除セスニハ非ス。轉歸ヲ化膿ニ致ス者ハ。
速ニ全治ス然レ氏時ニハ化膿ノ後。淚漏ヲ遺ス
トアリ。

治法

防斂法ヲ主トス一シ。瘻瘡ヲ殘ス者モ。醫治ノ助
ケヲ待タスシテ自ラ愈ユ。其愈一サル者ハ。烙錢
腐蝕劑効アリ。其後刺戟ノ射注法ヲ行ヒ。口ヲ開
キテ壓定帶ヲ行ス。

上眼瞼淚囊腫

此症ハ諸家各々論ヲ異ニス。殊ニ「シケシド」ト名
ハ、淚核ノ蜂窠織膨脹スル者ハ、此名ヲ命ス。疼ミ
ナク波動アリテ、其色淺暗、其大サハ中徑一トイ
ムナル者アリ。淚汁夥シク分泌スルハ、肥大シ
テ堅張ス。其他ノ諸家ハ、淚核管ノ膨脹スル者ニ
此名ヲ命ス。

原因治法

多クハ器械様ノ損傷、此病ノ原因トナル。若シ増
大スルハ、極メテ害アリ。手術ヲ用ヒテ是ヲ截
除スルハ、治シ難キニ非ス。然レハ反復ノ患屢

是アリ。其反復スルハニハ、炊衝ヲ發シテ、其所ヲ
愈合セシムルノ策ヲ行フヘシ。或ハ術ヲ用ヒテ
漏口ヲ作り、淚汁ヲ是ヨリ洞泄セシムルモ可ナ
リ。

淚核瘤

瘤内水ヲ蓄ル者アリ。又胞蟲首ナキ者ヲ納ムル
者アリ。而メ此病少ナカラス。其始メ緊痛。壓痛ヲ
覺ヘ。淚汁ノ泌別減シテ、淚核著シク肥大ス。始メ
ニハ針刺シテ囊中蓄ル者ヲ泄シ。刺戟膏ヲ用
ヒテ化膿ヲ起シテ全愈セシム。此囊ヲ摘ミ得テ

其蓄物ヲ探リ得ヘキ者ハ、年月ヲ經ル者ト雖、
針刺ヲ良トス。然レ、凡淚核既ニ變性スル者ハ、是
ヲ共ニ剔除スルニ如カス。時ニハ、凡瘤ノ深ク隱レ
テ、是ヲ識別スルヲ能ハサル者アリ。

淚囊炎

通例其發スルヲ寬緩慢徐ナリ。胃寒シテ、凡淚汁分
泌ノ鬱積、及ヒ其他ノ刺衝物ニ由テ生スル者ナ
リ。其急性ニ來ル者、甚ク稀レナリト雖、凡須カラ
ク外科術ヲ要セントスレハ、既ニ早ク忽チ豌豆
大ニ至ル者ナキニ非ス。弛緩質ノ者、是ヲ患レハ、

凡淚衝ノ状ナリ。只微痛ヲ以テ顯ハレ。指ニテ是ヲ
壓セハ、凡粘液ヲ混セシ、凡淚汁ヲ、凡淚點ト鼻管ヨリ漏
ス者アリ。其腫時ニハ、赤色、疼痛、溫熱、凡緊張シテ、知
覺敏銳ナルヲアリ。是ニ兼子テ結膜ノ脉管腎張
頬上ニ羅斯様ノ赤色ヲ顯スヲ以テ、凡眼瞼腫脹ノ
名ヲ命スルヲアリ。凡起期ニ及テハ、凡緊張、腫脹加リ
テ、尚ホ甚シキ者ハ、凡發熱ス。流涕太甚シク、凡涕汁多
クハ、凡淚衝ノ產物ヲ混シ、凡若シ數年經過スル者
ハ、慢性症ナル者ハ、凡淚衝部ニ蔓延シテ、尚且淚骨
ヲ犯スニ至ル者アリ。淚囊時ヲ定メテ、凡粘液ヲ充

テ、甚シキニ至テハ、膿ト涙汁ヲ混シユ、淚囊弛緩
シテ膨大シ、之ニ簾子テ知覺機ヲ進ス、覺神經尤
フリテ、神經痛著シク發ル者アリ、鼻道塞テ、涙汁
鼻中ニ至ラス、故ニ粘膜常ニ枯燥シ、頬上ヲ傳ヘ
テ淚流出ス、慢性症ハ、其經過モ亦從テ緩慢ナリ、
急性症ハ、時アリテ往來シ、化膿ヲ生シ、遂ニハ漏
管ヲ遺ス。

治法

始メニハ有力ノ防焮法ヲ行フヘシ、此法ヲ用ユ
レハ、急性症ヲハ、截斷スルニ至ラサルモ、病勢ヲ

折シクヘシ、水蛭、寒菴法即應ス、或ハ症ニ從テ、鉛
糖水ヲ溫貼シ効アルヲアリ、下劑ヲ行ヒ、安靜ニ
保護スルハ緊要トナス、經過甚ク速ナル症ハ、其
腫速ニ化膿ニ轉シテ、著シク突起スル所ノ頂キ
破裂ス、慢性症ニ於テモ、亦破裂セサルニ非ス、但
シ久シキヲ歷ルノ後、破レテ癰路ヲ造リテ、癰瘡
トナル者ナリ。

慢性症、再ヒ急性ノ經過ニ變スル者アリ、此症ハ、
始メニ焮衝ヲ制シテ、其後粘膜ノ層面ヲ修理ス
ルヲ要ス、其要ニ應スル處置ハ、數回腫ヲ壓シテ

蓄物ヲ拂ヒ。消酸銀水ヲ直チニ患所ニ滴入スル
ヲ最モ良トス。硫酸亜鉛。膽礬。又効ヲ同フス。知覺
機敏捷ノ者ハ。是等ニ阿芙蓉丁幾ヲ加フニシ。是
ヲ點シテ。淚點藥汁ヲ吸盡スルノ間ハ。慎テ病者
ヲ仰卧セシム。而ノ外部ニ。分解硬膏ヲ用ヒテ。刺
衝ヲ壓止ス。極メテ安靜ニ精神ヲ保チ。口禁ヲ嚴
ニシ。病原ヲ制スルノ策ヲ行フニシ。蓋シ局所ヲ
刺戟スル事件ハ。一切禁セスニハ非ス。若シ淚溝
ヨリ。藥汁ヲ吸盡スルヲ能ハサル者ハ。是ヲ射注
セスニハ非ス。此法方効ナケレハ。手術ヲ用ヒテ。

瘻路ヲ開ソニアラサレハ治セス。

淚囊瘻

此症ハ。淚囊。非常ノ所ニ口ヲ開キテ。泌別汁ヲ漏
泄スル者ナリ。故ニ或ハ「ヒ」フモル竇ニ漏泄シ。或
ハ頰上ニ漏泄ス。其「ヒ」フモル竇ニ。口ヲ通スル者
ヲハ。内瘻ト云ヒ。頰上ニ穴ヲ穿ツ者ヲハ。外瘻ト
云フ。外瘻ハ。慢性。癰衝ニ繼發スルヲ殊ニ多シト
ス。此症ハ。淚囊變性シ。其患ヒ周圍ニ及フニ由テ
生スル者ニテ。則不治ナリ。殊ニ近傍ノ骨質。是カ
タメニ病ヒニ罹レハ。彌々不治トス。淚囊瘻治療

ヲ怠レハ、又癰瘡ニ轉ス。初期ニ治療ヲ行ハ、尚
全治ヲ得一シト云ト雖、凡、久ヲ經ル者ハ、多クハ
腐骨疽^{死骨壞}ノ誘因トナリ、又不治ノ一症ニ属ス。
癰形ニ、或ハ單路ナル者アリ、或ハ迂路ニシテ數
路ヲ開ク者アリ、是多クハ骨質ハ、荒敗セラレテ
廣ク蔓延スル者トス。
此症、素質トナス一キ者ハ、二十歳ヨリ、四十歳ノ
際ノ婦人ニアリテ、左ノ淚囊、尤凡、是ニ罹リ易シ
トス。

全身ノ惡液質ヨリシテ起ル症狀ハ、有力ノ藥方

ヲ以テ制ス一シ、癰ハ勉メテ清淨ニ保護シ、時ア
リテ刺戟射注ヲ行ヒ、或ハ蠟海綿ヲ挿シテ、癰管
ヲ廣クス一シ、凡ソ癰管ハ、母子ニ豚腸線ヲ挿シ
テ廣クス一シ、若シ是等ノ法方効ナケレハ、淚囊
ノ全體ヲ荒蕪セシムルヲ要ス、乃チ流液淨出自
ラ止ム、或ハ流涕甚シク出テ、是ヲ淚點ヨリ吸盡
スルヲ能ハサルコトアリ、是五對神經ノ刺戟セラ
ル、ニ由ル者ナリ、若シ淚淨流出ノ病原、粘膜腫
脹シテ、粘液流出スルニ由ル者ハ、毎日數回、淚囊
上ヲ壓シテ後ニ、収斂ノ射注法ヲ行フヲ要ス、是

ニ魚子テ、沃度加里膏、或ハ沃陣丁幾ヲ、淚囊上ニ
行テ甚タ効アリ、

淚點淚管鎖閉

此症ハ、喉衝ノ後、或ハ其所擴張スルヲアリ、或ハ
狹隘トナリテ、其患ヲ遺スヲアリ、其擴張スル者
ハ、多クハ探針ノ誤用ニ由テ起リ、治シ難キ者ト
ス、其狹隘、或ハ鎖閉スル者ハ、粘膜肥厚、胛胝、若シ
クハ粘膜發育ニ、由テ生スル者トス、

治法

擴張スル者ハ、刺戟収斂法ヲ屢々試ムニ、然レ

氏多クハ効ナキ者ナリ、其狹隘ナル者ハ、細小ノ

ブーシノ豚線ヲ用テ慎テ挿シ、以テ是ヲ廣クル

術ヲ試ムニ、若天稟ニ出ル者ハ、先ツ針ヲ刺シ

テ、預シノロヲ開キ、其後探針、腸線ヲ挿シテ、其所

ヲ廣クルニアリ、若シ新膜ヲ生シテ、是カタノニ

鎖閉セラル、者ハ、其新膜ヲ破ルニアリ、

淚管息肉

此症少ナキニ非ス、其發スル氏ニ當テハ、淚囊腫

ニ混シ易シ、慎テ辨別スニ、粘膜ニ生スル所ノ

息肉ハ、多クハ瘤ニ類ス、手術ヲ用テ是ヲ抜クニ

ニアリ。淚小管ヨリシテ。此息肉ヲ生スルヲ見タ
リ。乃チ截除シテ。其後腐蝕劑ヲ貼ス。シテ。グル
ハ。淚管中ニ。葦肉ノ生スルヲ見タリ。又稀レ
ニハ淚囊中。結石ヲ生スルヲ見タリト云フ。是等
ノ症。時アリテハ。熾衝狀ノ主症ヲ眼中ニ起シ淚
湧流ル。一夥シキヲアリ。

淚阜腫

始ノ淚阜ノ所ノミ腫レ。漸ク蔓延シテ近隣ニ及
ブ。殊ニ内眥ニ於テ著シク多シ。此症。殊ニ淚阜ヲ
刺衝スル所ノ諸件ニ由テ生スル者ナリ。譬ハ。

塵埃。睫毛等ノ如シ。則其原因トナル者ヲ去レハ
自ラ止ム。若シ病ニ慢性ナル者ハ。淚阜ノ肥厚ヲ
發シ易シ。其肥厚ハ結組織。核。房。及ヒ斑點狀ノ房。
集合シテ成ル。若シ治療宜シカラス。病者ノ體格
惡性ナレハ。此腫著シク増シテ熾衝ノ性ヲ挾ミ。
則チ膿シテ種々ノ轉歸ヲ致ス。喩ハ淚點麻痺。
變性息肉狀。及結石等ノ如シ。

精細ニ病所ヲ探索スレハ。其鑒定ハ難キニ非ス。
未タ時日ヲ經サル者ハ。豫後凶ナラス。

治法

異物積膿愈令等ハ其法ニ由テ是ヲ去ルヘシ。淚
阜己ニ變性セシ者ハ是ヲ切除スルナリ。其術ハ
難キニアラス。

眼球病

眼球癌

癌性ノ最モ多ク顯ハル者ハ髓海綿腫ト色素
癌トナリ。眼球ノ内外是ヲ生ス。眼窩ニ生スル者
ハ刺スカ如キ疼痛著シクアリテ。眼底重ク。且緊
張スルヲ覺フ。眼球。眼窩外ニ突出セラレテ。遂ニ
變性ス。其次ハ多ク網膜ト。脉絡膜トニ生ス。病ニ

漸ク増大シテ。自ラ化育ノ機ヲ其中ニ存シテ。育
大極マレハ。眼球破裂ス。此病ニ時ニハ後口ニ向
テ發育シ。眼窩骨ヲ貫テ。腦質ヲ荒蕪シ。以テ死ヲ
致ス。大抵二年ノ内ニ死スヘシ。小兒最モ是ニ罹
リ易ク。色素癌ハ。剔出法ヲ行ヘハ。一時ノ急ヲ凌
グヘシ。凡ソ是ヲ治スルノ法ハ。眼球ヲ全ク剔出
スルニアリ。尚外部ノ眼瞼ヲモ截斷セスニハ非
ス。此法モ一時ノ効アリト雖。其衰我一二年ノ後
ニ。必ス再發スル者ナリ。

眼球創

此症最モ戒心シテ、精密ニ治法ヲ施スヘシ。至小ノ危カラサル小創モ、失明麻痺ヲ致スコトアリ。殊ニ異物、眼球内ニ止ルハ此患ニアリ。健康ノ者ハ大創ト雖モ全治スルコトアリ。蓋シ大創ヨリハ小創危険ナルカ如シ。蓋シ血液ノ硝子體ニ溢出スレハ、硝子體ハ網膜ヨリ離ル、コト少ナカラス。強膜ノ損傷モ、亦網膜ヨリ離ル、コトアリ。由テ眼球癭ヲ繼發ス。此ノ如キ症ハ、全治ヲ得ルノ企望ナキナリ。堅硬ノ異物、眼中ニ入り若クハ剝シク創ヲ受クレハ、眼窩内

破碎スル者ナリ。識別難キニ非ス。其破碎シテ碎片脱スル者ナリ。是ヲ復納スヘシ。蓋シ速ニ行ハスニハ非ス。尚且安静ニ保チテ、防癰法ヲ行フ要ス。若シ膿ヲ醸ス者ハ、勉メテ是ヲ泄ラスヲ要ス。碎骨、異物ノ眼中ニ留ル者ハ、速ニ是ヲ去ルヲ要ス。視神經ヲ破レハ盲ヲ致ス。硝子體ノ一部ヲ傷フ者ハ、常ニ必ス視力ヲ妨クル者ニ非ス。網膜振蕩ヲ受レハ、黑障眼ニ陷リ易シ。

治法

有力ノ防癰法ヲ行ヒ、眼球ヲ全ク安静ニ保チ、常

ニ清淨ニ處置スヘシ。眼球内ノ創ト。眼瞼ノ創トハ。直チニ是ヲ鎖閉セシム。若シ損傷スル眼ノ衰乏ヲ生スル者ハ。他眼ヲシテ是ニ罹ラサシメニカタメニ。特ニ注意シテ保護スヘシ。

全眼焮衝

此症ハ眼圍ノ諸部ト。眼ト共ニ腫脹スル者ナリ。識別甚タ難シ。原因ハ通例劇甚焮衝。全眼ニ蔓延スルニアリ。眼球漸ク膨大シ。淚流レテ止ム時ナク。羞明アリテ頭痛劇シク。發熱。搐搦。譫妄等ノ苦惱アリテ。恰モ眼窩ノ突出セラレ、カ如キヲ訴

フ。角膜遂ニ破レテ膿ヲ漏ラシ。遂ニ衰乏ヲ致ス。若シ眼ノ破レサルモ。遂ニハ必ス視力碍ケラレテ失明ス。

急性ノ經過症ニハ。有力ノ防焮法ヲ行ハ。縦ハハ刺絡ヲ反復ニ行ヒ。蟬針。氷片。下劑甘汞等ヲ行ヒ。或ハ亂刺シテ。緊張至大ヲ制スヘシ。然レモ病トノ解散スル者ハ甚少シ。多クハ眼破裂シテ皆死ニ陥リ。尚且甚シキハ。腦膜焮衝ヲ繼發シテ。是カタメニ死スル者少ナカラス。

全眼焮衝轉移症

是網膜ノ閉塞スルニ由テ生スル燐衝ナリ、且時
ニハ小血積ヲ見ルコトアリ。若シ死スレハ骨膜、脾、
腦、及ヒ心包膜内ニ、同種ノ小血積、小積膿ヲ致ス
ヲ見ル。是レ轉移ノ名ヲ命スル所謂ナリ若シ一
目ニ發スル者ハ、只左眼ニ感ス、兩眼共ニ感スル
者亦少シトセス。
若シ其眼太甚シク荒蕪セサル者ト雖、遂ニ全
ク盲ス、而ノ其小血積種々ノ變性ヲ、眼ノ諸部ニ
顯ス、是ヲ治スルモ其効ヲ奏スルコト甚タ少レナ
リ、局所法ハ、防燐法、諸刺戟ヲ禁ス、然レ氏殊ニ其

原因ニ據テ處置スルヲ法トス、

轉移全眼燐衝

昔ハ率然トシテ失明ニ陷ル症ヲ、總一テ真ノ轉

移全眼燐衝ト云一リ、

譬一ハ婦人、產褥ニ居テ忽
然ト失明スル如キ者ノ如シ

ニ、晩年ニ至リ「ヒルコ」名人勉メテ此症ヲ究明セシ

カハ、大ニ確症ヲ得タリ、病原ハ微糸血管閉塞シ

或ハ出血シテ光輝ヲ遮リ、是ヲ腦神ニ達スルコ

能ハス、或ハ燐衝化膿ニ轉シテ、全眼ヲ荒蕪スル

ヨリ起ル者ナリ、多クハ兩眼齊シク患フルレト、

片眼ナレハ、左眼患ルコト最も多シ、若シ盡ク荒蕪

セラル、ニ至ラスト雖氏失明スルヲ必セリ。

治法

局所ノ消燠法。一切ノ刺戟ヲ避ケ、安靜ニ護保シ、原病ヲ切ニ攷撃スルヲ要ス。

眼球勞

此症ハ、眼球ヲ荒敗スル疾病ノ轉歸ナリ。眼球衰乏シテ或ハ硬ク、或ハ軟ク、給養ノ度甚タ少ナキ者ナリ。眼球ノ形ヲ醜形ヲナシテ、眼窩内ニ沈没スルトリ。眼球ノ諸部、諸性ノ變性状ヲ受ル者ハ或ハ其質軟トナリ、或ハ硬結シ、或ハ化膿シ、或ハ

乾枯ス。透明物混濁シテ、物像ヲ透スヲ能ハス。眼球其機ヲ失フ。蓋シ幼壯ノ眼目ヲ失フ者ハ、他ノ五官感應銳敏トナル者ナリ。是眼目ニテ費ス一キ者ヲ、他ノ感應ニ付與スレハナリ。

治法

二法アリ。一防燠法。二義眼ナリ。

其一、防燠法ヲ以テ、燠衝ト其繼發ト、反復シ來ル者ヲ制ス一シ。

其二、義眼ヲ施シテ、其醜體ヲ補フ一シ。

眼科摘要卷之八終

